



# [特集:顔や首にできる大人のアトピー性皮膚炎]

アトピー性皮膚炎は、花粉症と同じI型アレルギーに分類されるアレルギー疾患といわれますが、アレルゲンを特定することさえ難しいのが現状。西洋医学的な物質を基礎にした物質的アプローチの考え方では、保湿を目的としたワセリンや非ステロイド剤を用い、痒みを抑えるステロイド剤を使った対症療法に終始するしかありません。(ステロイド剤は効果が高いのですが、副作用の問題もあり、長期使用の場合は使用量に注意して下さい。)このような際に東洋医学の「漢方」を導入することで、ステロイド剤の減量を図ることができます。西洋医学的な治療も併用しながら、漢方の治療効果がでてきたところで徐々にステロイド剤を減らしていき、最終的に使用を中止できる場合もあります。

☆東洋医学が得意とする、体質を原因と考える機能的アプローチは、どのように捉えているのでしょうか。

### 原因は「熱」と「風」? ~炎症と痒みの考え方~

アトピー性皮膚炎の特徴である、真っ赤な皮膚の炎症。東洋医学では、「熱邪(熱≡火のイメージ)」と表現しておりもう一つの特徴である、痒さは「風邪(風に揺れる木の葉をイメージ)」と表現しています。

『何故?』と思う方は、火事の現場で起こる「火柱」を思い出して下さい。この火柱は、火が起こる事で上昇気流が発生し風が立ち上り、風がますます火の勢いを煽る現象です。アトピー性皮膚炎の特徴である、炎症が痒みを呼び、掻きむしると炎症が酷くなる現象とよく似ていると思いませんか。

☆アトピーの治療法には様々な考え方がありますが、代表的な考え方を2つ紹介します。

1つは「鎮火すれば、風は自ずと止む」と診て熱邪に着目し、熱邪(炎症)をとる事で風邪(痒み)が自然と消え去るのを待つ治療法。

もう1つは、『熱邪の発生原因の多くはストレス(気滞)や過食(湿痰)にある』と着目し、熱邪によって起こる気の滞りを改善させれば体全体のバランスを整えられる』とする治療法。

### ストレス→気滞→湿痰→ストレスを感じやすい心理状態→甘い物の食べ過ぎ→湿痰↑ (悪循環)

湿痰を取って症状が改善しても、湿痰を生む原因となる気滞をちゃんと取っておかなければなりません。ストレスだけでなく不眠、飲食の不摂生による消化器の弱りなど様々な角度から治療する必要があります。

アトピー性皮膚炎の患者さんの多くは、痒みや不眠からストレスの影響を受けやすく、飲食の不摂生、消化器の不調、便秘や発汗の問題など多岐に渡った症状を抱えている事が少なくありません。これらの症状を一つ一つ治療するのは大変なので、ストレスや「瘀血」にポイントを絞って治療してみても良いでしょう。これらを解消するだけでもアトピーの症状が意外にも改善されることも多いのです。

### <アトピーに効果が期待できる漢方薬>

◎**加味逍遙散**:体力が中等度以下で、のぼせ感があり憂鬱感やイライラ、怒りっぽい精神神経症、疲れやすく便秘気味、不眠、更年期症状、生理不順などに効果があり、日本人と相性が良いそうです。

◎**黄連解毒湯**:体力が中等度以上で、のぼせ気味で顔色が赤くイライラして落ち着かない傾向があり、熱を帯びた湿疹、皮膚炎、皮膚の痒み、口内炎、眩暈、動悸、ホットフラッシュ等の更年期症状、不眠など、熱の症状と相性が良いそうです。

◎**桂枝茯苓丸**:慢性の月経不順、生理痛や女性に使うことの多い処方では、黒褐色のくすんだ点々としたシミ、肌のアレやかさつき、色の悪さ(皮膚のくすみ)等血液の循環が悪い様な症状と相性が良いそうです。

急激な気圧の変化や寒暖差、引越しなど個人の努力ではどうする事もできない外部環境の変化(外邪)を受け、アトピーの症状が増悪する事もありますが、個人の努力で改善できる食習慣の見直しやこまめな運動は積極的に行ってください。各人の体質により処方が決まるため、「アトピーだからこれ」といったものがなく、初めは皮膚よりも体調が先に良くなっていくことが多く、皮膚症状の改善がみられるのは治療の最終段階です。根気よく治療を続けていくことが大切です。



加味逍遙散  
-至宝-

黄連解毒湯  
-清皮-

